

# 復興を聞く

“津波被害から少しずつ街の景色が戻っている”との声があります。これまでの「コラムリバイブ」に代え、復興による街の魅力や変化を語っていただく「復興を聞く」を連載します。本号は、南浜地区で伝承活動などに取り組んでいる黒澤健一さんにお話を伺いました。

## 街の変化・魅力を感じるところはありますか？

プロムナード・水辺空間などの完成で“おっ！”と実感する。復興する構造物は、そこに人々が携わり、気持ちが入り新しく価値が生まれると思います。



黒澤健一さん  
東日本大震災3・11のつどい実行委員長  
『がんばろう!石巻の会』事務局長

南浜は悲しい場所ですが、祈念公園に地域のNPOを中心として苗木や花が植えられ、綺麗になっていきます。その中で足を向けられない人も向けられるようになってほしい。そんな思いを含め伝承活動に取り組んでいます。

雲雀野の防潮堤が7.2mと高くなり、震災前の道路冠水や車が流されることがなくなりよかったです。防潮堤に登ると、海の見え方が変わりました。島まで見渡せ、半島まで見えます。自然と100人を超える人が初日の出に集まっているのは素晴らしいことだろうと思います。

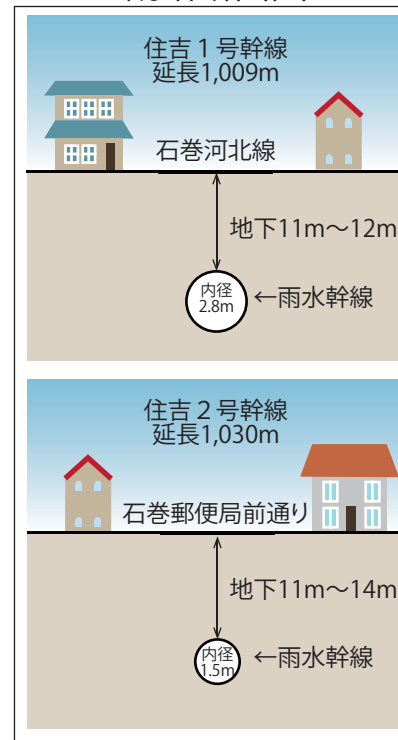
## 市民の皆さんへのメッセージをお願いします。

復興は前を向ける人から徐々に進んでいけば良いと思います。プロムナードや南浜祈念公園との関わりが環境整備になると思います。基盤整備をする中で人の心が変わり、前を向けるのではないのでしょうか。前に向けて進める人もいます。



出典:航空写真は北上川下流河川事務所提供

## 概略断面図



石巻市は、浸水リスクの軽減を図るため、ポンプ場とともに雨水を集める雨水幹線整備を進めています。本号では、住吉1号幹線と住吉2号幹線の工事について紹介します。どちらの幹線も土砂を泥土化して掘り進める泥土圧式シールド工法です。目印のない地下での工事なので、掘削する方向を常に監視し、修正することで1km進んでも誤差数cmという精度を確保しています。工事期間を短縮するため、



組立後の管渠内部

# 雨水幹線整備進む 住吉1号・2号幹線

雨水幹線本体の壁になる管材料(セグメント)は、仕上げの不要な内面が平滑な仕様にしています。

## 石巻駅周辺

# 津波防災拠点全施設が完成

石巻駅南側の市役所周辺で、津波防災拠点整備を進めてきました。2月に「にぎわい交流広場」が完成。5月30日に「ささえあいセンター」がオープンし、拠点の全施設が完成しました。災害時には、市役所・市立病院・防災センター・ささえあいセンターが一体となり防災拠点としての役割を担うこととなります。また、各施設間は歩行者デッキで連結しており、浸水等が発生した場合でも、防災・行政・医療・福祉の連携が発揮できるようになっています。



にぎわい交流広場

平常時には、交流広場でのイベント利用、地域包括ケア拠点のささえあいセンターは、市民交流の場としての利用も予定されています。市役所1階での商業施設のオープンもあり、駅周辺がより便利になります。



市役所・市立病院



連結された「ささえあいセンター・市立病院・市役所」



市役所・防災センターをつなぐデッキ



## 現場見学会

## 釜小6年生78名が堤防一体空間・内海橋を見学

1月27日(水)に、釜小学校6年生78名を対象に現場見学会を開催。川村孫兵衛の偉業を現代につなぐ河川堤防、人々が川と親しむ堤防一体空間そして旧北上川の兩岸を結ぶ内海橋を見学しました。

見学会では当時の工事体験として、堤防の広さを歩いて測る歩測体験、“もっこ”を使った土砂運搬体験をしました。

小学生からは、「堤防は何の材料で作られているの?」「昔はどのくらいの日数で堤防を作っていたの?」などの質問が寄せられました。



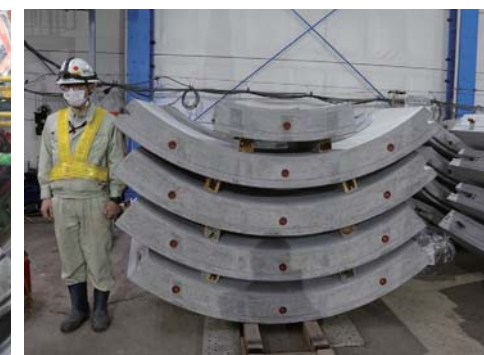
歩測体験



もっこ体験



トンネル先端部での管材料組立



管材料(セグメント)